

## 平成 27 年度第 2 回富良野市中小企業振興促進審議会議事録

日 時) 平成 28 年 1 月 26 日 (火) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 15 分

場 所) 富良野市役所大会議室

出席委員) 佐々木淳、平沢幸雄、杉谷久己、吉田幸生、奈良定雄、三瀬博之、  
荏原悦子、藤井雄一郎

事務局) 山内室長、本田係長、松野主査

### 1. 開会 (山内室長)

- ・ 本日は、審議委員 10 人のうち 8 人が出席をいただいている。富良野市中小企業振興条例施行規則第 16 条の規定に基づき、会議が成立していることを報告する。

### 2. 市長挨拶 (代理 石井副市長)

- ・ 市長が全国市長会用務で出張のため代理となったことをお詫び申し上げる。
- ・ まちひとしごと創生法施行後、国を挙げ地方から元気にしようとする施策が展開されている。市としても今年度末に向け総合戦略を策定している。
- ・ 人口減少対策にあたり、安心して働き、生活できる場が必要であり、そのためには、市内中小企業振興に取り組むことが重要。
- ・ 平成 24 年度に中小企業振興総合補助金を見直しして以降、新規開業 33 件に対し支援を行い、うち 28 件が中心市街地での出店。
- ・ 12 月に諮問した件について、本日結審をいただくと伺っているが、より使いやすくする方向で、忌憚のない意見をいただきたい。

### 3. 会長挨拶

- ・ 先日、意見交換会を開催させていただき、事業承継、人手不足、商店街の問題等、様々な意見をいただいた。
- ・ 中小企業の 9 割が人手不足で、事業に支障が出ているという調査結果もある。これまで雇用の減少が目立っていなかっただけで、人手不足の時代が本格的に到来している。
- ・ チャンスがあっても人材不足で事業拡大できない事例も聴く。人材確保の対応力が企業防衛のカギを握る。
- ・ 中小企業振興総合補助金制度でも人材育成支援事業として支援してきたが、総合戦略の中でも (対象事業として) とりあげられることとなった。
- ・ 本日、それぞれ、諮問内容を確認していただき、結審していきたい。

#### 4. 議事

議案第1号 富良野市中小企業振興条例に基づく対策事業の制度改正について

(諮問事項、審議委員の意見と市としての考え方について、事務局より説明、以下、質疑)

(佐々木会長)

- ・ 確認だが、商工業パワーアップ資金の制度名称について、変更となったのは名称だけということによろしいか。

(事務局)

- ・ そのとおり。

(佐々木会長)

- ・ 富良野市中小企業資金融資制度改正(案)について、質疑等あるか?(なしという声あり)
- ・ それでは本件について、市の諮問内容を妥当とする旨の答申方向でよろしいか?(賛同する声あり)
- ・ 本件について、別紙の案のとおり答申する。
- ・ 続いて、富良野市中小企業振興総合補助金制度改正(案)について、質疑等あるか?(なしという声あり)
- ・ それでは本件について、市の諮問内容を妥当とする旨の答申方向でよろしいか?(賛同する声あり)
- ・ 本件について、別紙の案のとおり答申する。
- ・ 以上をもって、諮問された審議内容については結審とするが、せっかくの機会なので、引き続き意見交換したい。

(三瀬委員)

- ・ 今回の融資制度、補助金制度の改正内容の周知については、どのように行うのか?

(事務局)

- ・ 市広報、市ホームページのほか、予算成立後、4月上旬をめどにパンフレットを作成し、富良野商工会議所、山部商工会、金融機関を通じて中小企業へ配布していく。そのほか、要請があれば、団体会合へ出向き、PRしていきたい。

(平沢委員)

- ・ 住宅リフォームの補助について、まだ市民全体へ浸透していない印象。市の広報に載せても目立たないので、チラシを広報へ折り込みしてPRしてはどうか。

(事務局)

- ・ 他部局所管事業であり、そうした要望があった旨、担当部署へ伝える。

(杉谷委員)

- ・ 市内の高校生が卒業後転出してしまうのは、就職したい企業がないからか?それとも、どんな企業があるのかも知らないからか?

(佐々木会長)

- ・ 地元就職先があれば、地元に残って就職したいという高校生も多いと聴く。ただし、志望がサービス産業化する傾向があり、偏りがあるのも事実。

(杉谷委員)

- ・ 若い人は、就職して3人に1人がやめてしまうと聴く。事前にどこまで就職先企業の情報を把握しているか疑問。

(佐々木会長)

- ・ 富良野商工会議所の労務委員会でも、企業の人材確保対策のため、IJターンや女性対策、高齢者対策など、何ができるか、具体の検討を行っている。

(平沢委員)

- ・ 荒木会頭の指示で、3月までに一定の方向性を出すべく議論している。(若い人が辞めてしまう問題について)企業の側に問題はないのか、企業から変わっていく視点で、検討をしていく。
- ・ 学校教育の段階でも、デスクワークへ誘導されていくような教育ばかりではなく、ものづくりにも興味を持ってもらえるような教育アプローチも必要。

(佐々木会長)

- ・ フルタイムの社員を募集しても応募がないという企業もいる。短時間勤務を組み合わせさせて仕事を回さなくてはならない実情もある。
- ・ 外国人の技能実習制度も、経営側が安い労働力としてか見ていないと問題だ。

(藤井委員)

- ・ 高校生がどのように就職活動しているか、市はしっかりとモニターしてほしい。
- ・ 地域の子どもがいかに流出しないか、いかに地元に戻すか、就職活動のモニター結果とあわせて、対策を検討してほしい。
- ・ 当社は、5年前から6名新規採用し、道外からも新卒者を採用している。住宅の新卒給料水準も上がっているので、それに対応しようとする、既存職員の待遇も上げなければならない、そのコストも大きい。
- ・ 富良野市は家賃水準が高く、市には住宅対策をやってほしい。
- ・ 移住促進協議会の事業とも連動して、富良野の魅力を発信し、いかに人材を集めるかということを総合的に進めてほしい。

(杉谷委員)

- ・ 今後、農業生産法人の設立が増えるのだろうか？

(藤井委員)

- ・ 一概には言えないが、増える傾向にはあると思う。地元の子どもを採用できればいいのだが、なかなか地元の子どもの志望がない。

(吉田委員)

- ・ 生まれ育った土地ではなかなか良さが見えない。自分の経験でも外に出てみて気づくことが多い。

(三瀬委員)

- ・ 富良野の郷土知識について「富良野検定」制度をつくり、若者のキャリア教育へつなげてはどうか。郷土愛の醸成にもつながるし、検定に合格すれば、履歴書に書いて、(企業から)評価もされるということであれば、メリットもある。

(奈良委員)

- ・ 世の中全体として、サラリーマン化をめざすような風潮がある。中高生から農業を含めたものづくりに興味を持ってもらえるようなキャリア教育が必要では。

(荏原委員)

- ・ ガイドマップを片手にした外国人から道案内を求められることが多い。なかなか地元のことについてわかっているようで情報に疎い面もある。

(杉谷委員)

- ・ 今年は外国人観光客が多いような印象があるが？

(佐々木会長)

- ・ 飲食店が人手不足で回らない、あるいは語学ができず対応できないなど痛しかゆしの面が出てきている。

(奈良委員)

- ・ 商店街の新年度の重点事業でも英会話の勉強会をしようかという話もしている。
- ・ (スマホの翻訳ソフトでも対応できると聞いているが)機械の操作が難しくて対応できない店主も多い。

(吉田委員)

- ・ 市でも外国人接客対応のための指差しシートを作成しているので、活用してみてもどうか。

(山内室長)

- ・ 指差しシートについては英語も対応している。
- ・ キャリア教育推進の観点では、インターンシップを強化する必要がある。学校教育段階で多様な経験を積ませることが重要なので、企業も受け入れをお願いしたい。
- ・ これからは人材を必要とする企業は情報発信をやらなければならない。
- ・ 冬季の雇用維持に向けて、冬季観光のてこ入れを図る。
- ・ 来年度、企業と連携した資格取得の支援など検討していくので、こうした審議会の機会や、商工会議所・商工会などを通じて、現場の情報の提供や、具体的な提案をお願いしたい。

## 5. その他

特になし

## 6. 閉会 (午後 4 時 15 分終了)